

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-179	16-097 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Predicting the Population Health Impacts of Community Interventions: The Case of Alcohol Outlets and Binge Drinking. 地域介入による公衆衛生への影響予測: アルコール販売店と暴飲		
執筆者		
Ahern J, Colson KE, Margerson-Zilko C, Hubbard A, Galea S.		
掲載誌		
Am J Public Health. 2016 Nov;106(11):1938-1943. Epub 2016 Sep 15.		
キーワード		PMID
アルコール販売店、暴飲、公衆衛生		27631757
要 旨		
目的：		
<p>Substitution estimator は、暴露集団の変化が集団の健康にもたらす影響を予測するために用いられる。本研究ではこの推定を用いたアプローチの有用性を示すため、酒類販売免許店舗数の密度の上限値が暴飲に与える影響を推定した。</p>		
方法：		
<p>2005 年の the New York Social Environment Study (n=4,000) のデータを使用し、酒類販売免許店舗（販売は行うが消費場所を提供しない）数の密度（店/ mile²）を算出した。暴飲の定義は、過去 12 か月間における過剰な飲酒（女性で 4 杯以上/2h、男性で 5 杯以上/2h）の機会が毎月またはそれ以上であった場合とし、国立アルコール乱用・依存症研究所のアルコール関連の質問と、世界精神保健統合国際診断面接のアルコール基本単位を用いて評価した。多変量解析により、対象集団の観察された暴飲率とアルコール販売店密度をある上限値まで減少したと仮定した場合の暴飲率の差を分析した。分析は、交絡因子の年齢、人種または民族、性別、婚姻状況、出身地、教育歴、収入、雇用状況、近隣住居年数、調査言語、飲酒歴、近隣の平均所得中央値を調整して行った。</p>		
結果：		
<p>アルコール販売店の上限を 70 店/ mile² とした場合、上限値まで販売店を減少させたと仮定した場合の暴飲率減少が最大となり、その差はニューヨーク全体で-0.7%（95%信頼区間 [CI]: -0.2%, -1.3%）であった。また、実際に販売店密度の減少した地域の住民を対象とした場合も、同様の上限値で暴飲率の減少が最大となり、その差は-2.4%であった（95%信頼区間 [CI]: -0.5%, -4.0%）。</p>		
結論：		
<p>Substitution estimator は、集団介入のパラメーターを推定し、実務者に対して公衆衛生研究の成果を示すための柔軟なツールである。</p>		